

「未来を拓く」②

暦は3月に入り、進級、卒業が迫ってきました。3年生の皆さんは、先日の公立高校A日程面接で、これからの3年間頑張りたいことや、その後の進み方を聞かれたことと思います。進級や卒業は通過点であり、皆さんの前には道が続いています。毎日の授業だけでなく、学校行事や部活動、生徒会活動を通して得た知識や経験は、皆さんの道を広げてくれます。どんなことがきっかけで道が広がるかは分かりません。後から振り返った時、「あの時の、あれだったのか」と気付くのだと思います。何事も、自分のプラスになると思って、前向きに取り組みましょう。卒業を控えた3年生 川田さんに、3年間で振り返って感じることを聞きました。

多様性が認められる社会へ

川田 野々花 高知市潮江中3年

中学校卒業を来月に控え、高校の制服の準備も間近に迫ってきました。私は、全国で男女兼用の制服が採用されつつあることは知っていましたが、先日、高知県内にある男女ともにスラックスを着用できる学校の制服を、実際に店舗で見ることができました。私は、選択肢がひろがることは、一人一人の個性が尊重され、誰もが生きやすくなると思いました。街に目を向けると、2段になった手すりやエレベーター

のボタンの高さ、建物の入り口に延びるスロープ、券売機下のくぼみ、多機能トイレの増加、バスやタクシーも乗降しやすいように変化し、バリアフリーが広がっているように思えます。そこに暮らす人みんなにやさしい社会へと変わりつつあることを感じます。

私はこれからの未来、施設のバリアフリーだけでなく、多様な価値観を受け入れる「心のバリアフリー」が大切だと考えます。誰もが笑顔でいられる未来を願って、私は助けを必要としている人に気付ける自分に、すぐに手を貸せる自分になりたいと思います。



3年2組 川田野々花さん

1, 2年生におくる言葉

私は生徒会活動を通して、学校行事を運営する苦勞や創り上げていく楽しさを知りました。また、生徒会のみならず潮江SDGsを考えながら、多様性を認める社会の必要性を痛感しました。生徒会活動を通して培った力を高校生活や日常生活でいかし、誰かの役に立てる人になりたいと思います。

中学校3年間、勉強することはもちろん大切ですが、いろいろなことに挑戦し、様々な経験をすることが自信につながっていくと思います。頑張ってください。



2022年(令和4年)2月24日

ミカドアゲハのインタビュー⑥

高知新聞「声ひろば」より